

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800419		
法人名	サンコーケアライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生94番地19	Tel 0948-42-7578	
自己評価作成日	平成29年07月14日	評価結果確定日	平成29年09月03日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設12年目になります。けやきの理念である「入居者第一」をモットーに入居者が元気で明るく楽しく過ごせることを願って頑張っています。特に朝の体操、レクリエーションには力を入れています。
 身体を動かし、声を出し、頭の体操を行い、皆様とてもお元気です。ご本人の思いを大切にしながら、出来る事を継続して頂き「ここで良かった…」の言葉が頂ける様に日々頑張っています。
 また、定期的に外出や外食も取り入れ、日々楽しく過ごして頂けるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成29年08月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「けやき」は嘉麻市の高台にある閑静な住宅地で、有料老人ホームと併設の2ユニット(定員18人)のグループホームである。周囲は緑豊かで、手入れの行き届いた畑では、トマトやピーマン、ナス等が実り、利用者は収穫を楽しみ、採れたての旬の野菜を職員が工夫して作る料理は、味や彩り、盛り付けに拘り、利用者のほとんどが完食し、健康増進に繋がっている。「入居者第一」を理念に謳い、介護技術や質の高い職員が、利用者一人ひとりの思いを大切にして、明るい笑顔で声かけし、利用者が楽しみながら、体操やハンドベルの演奏を行うことで、心身機能の維持を目指し、利用者が生きがいをもって暮らせる介護サービスの提供に取り組んでいる。また、運営推進会議の委員を通じて、地域との信頼関係を築き、地域の福祉事業の拠点を目指し、存在感のある頼りになるグループホーム「けやき」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者第一」の理念のもとに、尊厳ある介護を目指して頑張っています。	「家庭的な環境の中で、尊厳のある暮らしの支援を、利用者本位に行う」という理念を掲げ、職員会議の中で理念を唱和し、職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解し、利用者の生きがいに繋がる介護サービスの提供に取り組んでいる。また、職員は、介護に迷った時には理念を振り返り、介護の原点に戻っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	諸々の行事等の声掛け等をして頂き、地域に根ざした施設であることを心掛けている。	町内会に加入し、利用者や職員は、地域の行事や婦人会と交流を図り、ホームの行事に地域の方やボランティア、家族が参加し、年々交流の輪が広がっている。また、小学生のホーム見学や中・高生の体験学習の受け入れを行い、認知症の啓発活動にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議のメンバーに地元の警察の方にも協力要請し、参加して頂き、何かあってもすぐに支援して頂ける関係作りをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域施設の情報交換の場として話し合い、サービス向上に活かせるよう活発に頑張っている。	会議は2ヶ月毎に年6回開催し、ホームの運営や取り組み事故等を報告し、外部の目を通した参加委員から、質問や要望、情報等を提案して貰い、活発な意見交換会である。出された案件や勘案事項は、次の会議で結果を報告し、ホームの運営や業務改善に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議、会議のメンバーとして顔馴染の関係を作り、何でも相談できるようにしている。会議、講義等にも積極的に参加して協力関係を築いている。	管理者は、ホームの空き状況や介護の疑問点、困難事例、事故等を行政窓口で相談し、情報交換して連携を図っている。地域包括支援センター主催の会議や研修会に参加し、情報交換を行い行政と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、身体拘束にならないか問題提議し、拘束しない取組に頑張っている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員会議の中で身体拘束について勉強会を開き、禁止行為の具体的な事例を検証し、「身体拘束をしない・させない」介護について職員間で注意し合い、言葉遣いや対応に配慮して、利用者が安心して暮らせるグループホームを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんのこと、言葉の暴力にも気を付けて虐待にならない様に気を付け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方も多し。勉強会を開催し、理解を深める様にしている。	現在、権利擁護の制度を活用している利用者があるので、職員は制度が、利用者や家族にとって、重要な制度であることを理解し、資料やパンフレットを用意している。また、利用者の重度化に合わせて、関係者と話し合い、申請手続きに向けた支援体制を整え、利用者の権利や財産が、不利益を被らないよう支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前には必ず説明、納得して頂いて契約を行う様にしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には出来るだけ近況の状態を説明している。 嘉麻市からの介護相談員にも相談して頂けるように言葉掛けしている。	職員は、利用者との日常会話から、思いや意向を聴き取り、家族面会時に利用者の近況や健康状態と合わせて報告し、家族から意見や要望、心配な事等を聴き取り、利用者の介護計画の作成やホームの運営に反映出来るように取り組んでいる。また、話す機会の少ない家族には、ホーム便りや利用者の近況を報告し理解してもらい、意見や要望を聞き出している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、合同会議等を開いて、職員の意見が反映できるようにしている。	職員合同会議やユニット毎の会議を開催し、職員の意見や要望、アイデア等を出し合い、活発な会議になっている。管理者は、職員の意見に耳を傾け、ホームの運営に反映させることで、職員の働く意欲に繋げている。また、管理者は、職員が意見や要望を言いやすい雰囲気をつくり、職員が意欲的に働ける環境整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれに役割分担をし、優れた面が発揮できるようにしている。 出来るだけ勤務要望を取り入れて環境が整い、働きやすい場であるようにしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、男女の差別はしない。 各自の能力を最大に発揮して頂くようにしている。	管理者は職員の特技や能力を把握し、手芸や園芸、歌、料理、レクリエーション等を活かして楽しく働ける職場づくりに取り組んでいる。職員の休憩室やロッカーを整備し、休憩時間や勤務体制、希望休に配慮し、リフレッシュしながら働ける職場環境を目指している。また、外部の研修に職員の経験や習熟度に合わせて交代で参加してもらい、介護の知識と技術の向上を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	尊厳を大切に職員間で意見交換を常に行っている。	利用者の人権を尊重する介護について、職員会議や勉強会の中で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮し、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの提供に取り組んでいる。また、家庭的な環境と良好な人間関係を築き、尊厳のある穏やかな暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を開催、毎月のテーマごとに職員に研鑽、発表の場を設けてケアの質を高める取り組みをしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	嘉麻市主催の交流会には必ず参加し、共有の機会を持ち、同業者とは研修会などで顔馴染になり、色々な事例などを相談してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちに寄り添い、ご本人の思いをプランに繋げる様にお話を聞く様にし、生活歴を大切にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インタビュー、アセスメント時に、しっかりと要望を受け止め、ニーズを見極めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時の情報、現状を把握し、他職種とも連携を取り、必要に応じたサービスが行われる様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の性格や生活歴を把握して、お互いに出来ることは協力し共に支え合える様にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互い出来る事を協力頂きながら、共に支え合える様をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、地域の方々、又、かかりつけ医、美容院等、馴染みの関係が途切れない様に支援している。	利用者の友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり寛げる環境を整えている。入居前の利用者の生活状況や人間関係を把握し、病院や美容院、買い物等に同行し、出先で知人と出会ったりして、利用者が、これまでに築いてきた馴染みの人間関係や地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の能力を大切にしながら、日中のレクリエーション等で交流の場を提供し、共に楽しんで過ごすように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したり退去なさっても、機会があれば連携を取り関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体状況に応じた対応はもちろんの事、本人の意向、言葉を大切に望む生活が出来るよう支援している。	職員は、利用者と日常の会話の中から、希望や意向を聞き取り、家族と相談して実現に向けて取り組んでいる。また、意向表出が難しい利用者にも職員が諦めずに、利用者に寄り添い、明るく話しかけ、利用者の表情や仕草から思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	長年の生活の中での生活歴を大切に性格等も考慮し、サービスに努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状況を日誌に記載し情報を共有。特に発した言葉を漏らさないようにし、心身状態の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者の日々の関わりの中から意見交換を行い、ご家族からの要望などを担当者会議で反映している。	面会時や行事参加の時に、利用者や家族の意見や要望を聞き取り、担当者会議で利用者の現状と目標達成状況等を確認し、その結果を踏まえて利用者本位の介護計画を3ヶ月ごとに作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医、看護師と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の発した言葉、動作等を記録に残し、情報共有に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態把握を行い、ニーズに対して支援内容を皆で話し合っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力をお願いしながら、日々の暮らしが楽しく出来るように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況を把握する為にも、受診介助し医療連携がスムーズに行く様にしている。	入居前に利用者や家族の希望を聴き、馴染みのかかりつけ医の受診を支援しているが、利用者の重度化が進むと、往診できる協力医療機関に利用者や家族の納得の上で変更し、24時間安心して医療が受けられる支援体制を整えている。また、主治医と訪問看護師(毎週訪問)、介護職員は、常に連携を図り、利用者が安心して医療が受けられる体制を整えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全てにおいて相談し、変わった事があれば報告し協働作業に努めており、連携を常に取れている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず入院される時、入院期間中、退院時は対応し、状況を把握し情報交換している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に意向を伺い、その後、身体状況に応じて何度も話し合い、確認を取るようして、看取りに繋げる対応が出来るよう協議しケアを行っている。	ターミナルケアについて契約時に、利用者や家族にホームで出来る支援と、出来ない支援について説明し、希望を聴きながら了承を得ている。利用者の重度化に伴い、改めて利用者や家族から希望を聴きとり、主治医の意見を聞きながら今後の介護方針を確認し、看取り介護に向けて、職員全員で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、連絡体制を決めている。定期的に勉強会や訓練を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月テーマを決めて訓練をしている。訓練で見えてくる問題提議して取り組みの反省をしている。	防災訓練を毎年1回は、消防署の指導と協力を得て実施し、毎月第一日曜日には自主防災訓練を実施し、通報や初期消火、避難誘導を迅速に行い、利用者が安全に避難場所に避難できる体制を整えている。訓練を毎月繰り返すことで、職員一人ひとりが避難誘導を体で覚え、いざという時に対応できるように工夫している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を大切にしながら、尊厳のある言葉かけが出来る様に対応している。	利用者のプライバシーを守る介護について職員間で話し合い、優しい対応や声掛けで、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、利用者一人ひとりが安心して過ごせるホームを目指している。また、利用者の個人情報の記録の保管や職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、職員全員に周知出来ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活背景を理解し、押しつけでなく意欲を引き出せるよう声掛け、意思の確認を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意欲の低下が見られる中、体を動かすことは積極的に声掛け、その他はご本人のお好きな様にして過ごして頂くようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に一日のメリハリでお洒落を楽しんで頂いている。七夕まつりには毎年浴衣等も着て頂き、髪型にも気配りしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえを共にしたり、季節感を感じる野菜の収穫、行事ごとの巻き寿司や、ぼた餅作り等、楽しく美味しく召し上がるようにしている。	食事は利用者の楽しみであり、畑で採ってきた新鮮な野菜を使い、利用者の残存能力を引き出しながら、下拵えや味付け、盛り付け、後片付け等を職員と一緒に手伝ってもらい、談笑しながら食事する利用者の様子は楽しそうで、微笑ましいものがある。また、季節ごとに梅干しやラッキョウ漬け等を作って楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病状に合わせた食事提供をし、摂れない時のカロリーー保持等、その時の状況に応じた対応を心掛けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは定着している。ご自分で出来ない方等は、訪問歯科のアドバイスを頂きながらケアに努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンに合わせての排泄対応をし、トイレでの自立した排泄が出来る様に支援して、常に清潔に過ごせるようにしている。	利用者の重度化が進んでいるが、職員の努力でトイレでの排泄の支援を基本とし、利用者の排泄チェック表や生活習慣を把握した職員が、タイミング良く声掛けや誘導を行い、失敗の少ない排泄の支援に取り組んでいる。また、下肢筋力を鍛える生活リハビリを取り入れ、何時までも利用者の立位が保てるように努力している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便があるように記録し心掛けているが、運動量も足りないのか、緩下剤に頼る方も多い。チェックは必ず毎日行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の対応であるが、体調に応じて細やかにその日に合った支援をしている。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の希望に合わせて入浴が出来るように支援し、毎日入ることも可能である。大と小の2つの浴槽があり、利用者のその日の状態に合わせて選んでもらい、入浴が楽しく行われるように支援している。重度化の利用者には、ストレッチャーを使用して浴槽に入ってもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた時や休息時間は個々のペースで過ごせるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の処方箋を綴じ、誰もが確認出来るようにしている。病状等も変わったことがあれば記入し記録している。各自が理解、確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や楽しみごと等、出来る役割を支援、外出等も気分転換できるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に野外レクリエーションを楽しんで頂き、気分転換している。ご家族にもお願いできる方には外出して楽しんで頂いている。	天気の良い日は、ホーム周辺の散歩や買い物に出かけ、四季の移り変わりを、利用者の五感で感じてもらい気分転換に繋げている。また、地域の祭りや活動にも出かけ、家族の協力を得て外食や買い物に出かける等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はご自分で買う事が出来る様に支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の自由にして頂いている。声を聴きたくなければ、いつでも対応し、好きな時にかけて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境を整えている。季節ごとの貼り絵をしたり、その季節の季語を習道したり活け花で季節を感じて頂く工夫をしている。	広い敷地の中にある平屋建てのホームは、玄関や壁に利用者と職員の季節ごとの作品が掲示され、生花を飾り季節感あふれる雰囲気である。リビングルームに利用者が集まり、仲の良い利用者同士が談笑したり、職員とゲームや作品作りを楽しんでいる。また、建物内は、音や照明、温度や湿度、換気に注意し清潔で明るい共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決められた場所が安心のようでもあるが、時には各自の居室等でくつろいでいる時もある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室によって、それぞれ趣きが変わっているが、個性を活かせる工夫をしている。	利用者が長年使い慣れたお気に入りの筆筒やベッド、鏡や仏壇、生活必需品を家族の協力で持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように工夫し、自宅と違和感のない雰囲気の中で、利用者が安心して穏やかに暮らせるように工夫して、清掃が行き届き、明るくて居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具等も利用して安全に自立に向けた生活が出来る様に支援する。歩行する場所等に物は置かないようにし、歩行の妨げにならないようにする。		